

しろあと

資源回収

八月二十六日土曜日に資源回収を行いました。
各地域でPTA役員の皆さまが回収し、学校での積み下ろしの作業では、本部の皆さまや先生をはじめ、生徒たちが汗だくになりながら資源を運び、とても気持ちの良い働きぶりでした。

三年保護者



3年生の生徒の皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。思い出せば、じつにたくさんの行事を経験して立派に成長を遂げた姿を頼もしく見えています。

在校生の皆さん、慣れ親しんだ先輩方を見送り、それぞれが進級し、新たな学年で新しい経験を積んでいくことでしょう。希望と不安を抱き、新たなステージに上っていくみなさんへ、エールを込めて「しろあと」を編集しました。

三年保護者

地区の収集場所で資源を積み、学校へ向かうと、校長先生をはじめ先生方、生徒たちが待つており、手際良く車より荷物を下ろしてくれました。
生徒たちは先生に指示されることもなく、きちんと分別して運んでいました。
暑い中でしたので先生方、役員、生徒たちが協力してスムーズに終えることができて良かったです。



人とのつながり

館林市立第二中学校

校長 中村美江子

二中の秋は合唱一筋。どの学級も心に響く、素晴らしいハーモニーを作り上げました。そして、日々の合唱練習を通して、生徒たちは、かけがえのないことも学んでいました。

「同じ気持ちで一緒に頑張ってきたクラスメイトがいたからこそ最後までやりきることができたのだと思います。」

「これからの人生でも、誰かと協力して一つのことに挑戦することの素晴らしさを忘れずに生きていきたいと思えます。」等々。

多くの生徒の感想文には、人と人がつながることで得られた充実感や満足感、達成感が表現されていました。

また、今年度本校は、社会に開かれた教育をめざして、コミュニケーション・スクール活動に力を入れ、様々な体験活動や地域の方々との交流を実践してきました。総合的な学習の時間では、探究活動の際に地域での体験活動を行ったり、学校公開で自分の考えを来校者に発信したりしました。さらに、加

立志式

二年生保護者

立志式を参観させていただきました。
緊張した様子ではありましたが、一人一人が将来の夢や希望を大きな文字で表現し、堂々と発表していました。大きな夢をもち、高い意志をもって、やり抜いていたのだと思います。お父さんやお母さんはずっとあたたかみを感じます。そして、こんなに立派に育ってくれてありがとう。
本当におめでとうございます。



二年担当教諭

立志式といえば、元服、大人になる、将来の夢などいろいろな関連ワードが出てきます。その全てに「今」が存在しています。生徒たちは未熟な大人ではなく、今を立派に生きる中学生なんだと改めて感じさせられました。
生まれてからの十四年で、しっかりと生きる力を身に付け、今を一生懸命に生きています。
そんな今の瞬間を切り取って言葉にした生徒、今、この瞬間から未来をのぞき見て言葉にした生徒。
大人になったらどれ程立派になるかな・・・なんて考えましたが、今でも十分中学生として立派に生きていますね。二中にいる間も卒業してからも、「今」という地に足を踏ん張って成長してほしいです。

法師川の清掃に全校で取り組んだり、特別養護老人ホームの訪問や地域の商業施設で募金活動を行ったり等、社会貢献につながる体験活動も行うことができました。生徒達は、地域の方々とのつながりを深めるような、これらの体験活動を通して、新たに自分のよさに気付いたり、「できた」という喜びとともに、自分に自信がもてたりしたのではないかと思います。
このように、校内行事や体験活動等を通して、中学生の多感な時期に、人とのつながることの大切さを実感することは、今後の人生を豊かにするための「生きる力」に結びつくのではないかと考えています。
保護者の皆様、そして地域の皆様、これからも第二中学校へのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



一年を振り返って

一年目の中学校生活を終えよう
としている皆さんへ 一学年

四月、二中の門をくぐり、入学式を迎えた一年前。小学生から中学生になったばかりの君たちは、ちょっと大きめの制服を身にまとい、期待と不安を表情に浮かべながら学校生活をスタートさせました。長かったようであつたという間のこの一年間で、たくさん成長を感じさせてくれました。

ジュニアオリンピック。それぞれの目標に向かい一生懸命取り組むと同時に、クラスの団結力を見ることができました。ベストを尽くして頑張る仲間の応援、仲間と共に汗を流して取り組んだチームジャンプ、綱引き、リレー。嬉しい思いや悔しい思いもありましたが、終わった時のみんなの笑顔からは大きな達成感を感じました。

高原学校。時間の都合で下山はロープウェイになった登山、みんなと協力して一丸となって頑張ったカッター、そしてドキドキしながら手を繋ぎ踊り狂ったキャンプファイヤー、有志が集まり榛名湖畔を散策した朝ラン、先生に怒られた場面もあった

けど、それぞれの活動を通して集団生活の大変さと楽しさを学ぶことができたことでしょう。

合唱コンクール。それぞれのパートで協力して進めた練習。「二中の秋は：合唱一筋」。このスローガンの意味を少しずつ感じながらの毎日の練習。パート内での意見の食い違いや対立を乗り越えて迎えた本番。今までの練習に真剣に取り組んだからこそ、賞よりも「大切なもの」を見つけ、クラスの「絆」が深まり、「変わらないもの」を手に入れることができたのだと思います。

様々な学校行事で得たものは大きいですが、毎日の生活からも大きな成長を感じます。四月には見ることのできなかつた真剣な表情、眼差し。もうすっかり立派な中学生です。一年経って制服もすっかり着こなせるようになりました。四月からは二年生、新たに入学してくる新入生に一年前の自分の姿を重ねることで成長を実感するところでしよう。先輩として堂々とした姿を見せながら活躍してくれることを期待しています。

二中のリーダーとなる皆さんへ

二学年

二中の生活にもすっかり慣れた二年生。「勉強も行事も、より一層力を入れて頑張りたい！」さらには、「信頼される先輩になりたい！」という新たな思いを胸にスタートしました。二年生は「中だるみする」とよく言われますが、気を抜いている暇もないほど忙しい、いや、充実した一年でした。

少しずつコロナ前の日常に戻ってきたこともあり、校内ジュニアオリンピック・合唱・持久走と昨年度以上に学校行事が盛り上がりしました。さらに、職場体験が実施できたことは、生徒たちにとって大変貴重な経験となりました。働くことの大変さや喜びを味わうことができて、自分の将来について深く考えることができました。立志式でも、一人ひとりの熱意が伝わる決意表明で、生徒たちが大人に近づいてきていることを改めて感じました。

また、二学期からは部活動の中心となり、それぞれの目標に向けて頑張る姿がたくさん見られました。後輩たちにアドバイスをした

合唱コンクール ①

三年 保護者

合唱コンクールが館林市文化会館カルピスホールにて行われました。

今年度は、コロナ感染のリスクの軽減のためのマスクや感染制限もなく、来年度入学を迎える六年生の姿も見られました。

全員の校歌斉唱から始まり、一年生、二年生、三年生と各学年とも学年合唱からクラス合唱と行われました。

審査員の先生の講評から、一年生はまだフレッシュな歌声で、二年生になると、男性らしい声、女性らしい声になり、スケール感、バランス、ハーモニー、メロディが安定したものになってきて、三年生になると、最後のコンクールであるため、思いのある選曲をし、難易度の高い曲を今日の合唱に向けて仕上げ、みんなのメッセージを歌声にして、気持ちをのせて歌っていました。

今後、この歌がクラスの仲間とともに、行った行事として人生の支

護者としては、学年ごとに素晴らしくなっていく歌声を聞き、子どもたちのこれからの成長を楽しみにし、三年生の保護者としては、子どもの成長を実感した、ひとときであったと思います。

審査中の吹奏楽部の演奏も、会場を巻き込み、場をなごます楽しい演奏でした。

各クラスで仕上げてきた発表ではありませんが、大ホールでの出来栄の差が、順位の違いになってしまったかもしれません。一人一人の歌声は素晴らしかったです。

最後の全校合唱のふるさととは、観客の方へ向かって歌われて迫力があり、本当に感動する合唱コンクールでした。

初めての合唱、つかみ取ったクラスの「絆」 一年一組

「一年生の部、金賞は、、、一組ー!!」

結果発表の場内アナウンスが流れた後、やりきったという感情がこみ上げてきた。どのクラスも最



高の歌声を響かせていただけに、喜びもひとしおだった。

一年一組が歌った曲は「絆」。この曲は歌詞の内容が一組のみんなにぴったりだった。中学校に入学しクラスのみならずと過ごしてきた中で深まってきた絆。これを表現できるように歌おうと練習に励んだ。しかし、いざ練習を始めてみるとたくさん課題が見えてきた。パート練習ではしっかりと歌えているのに、合わせてみると他のパートにつられてしまう。声量が全然足りない。強弱の変化が上手く表現できない。それらを改善するためにパートリーダーを始め多くの子が課題を解決する方法を考えた。ロイノートを活用しお手本と聞き比べたり、良い点や改善点を書き溜めたりしながら取り組むうちに、だんだんとクラス心が一つになってきた。本番は、「賞の向こう側にあるものをつかみにいこう!」を合言葉

り、自ら進んで活動したり、先輩としての自覚も芽生えてきたように感じます。学習に関しては、進路を意識して努力し始めた生徒がいる一方で、まだまだのんびり構えている雰囲気があるのでは...と少し心配になる場面もあります。しかし、中学校三年間を考えると、残された時間の方が少なくなってきました。この先の進路を見据えて、学年全体が一丸となって頑張っていける雰囲気をつくって行けたらと思います。

もうすぐ三年生。さらに大きく成長し、二中の顔として活躍してくれることを願っています。



立志式の様子



1年生 学年合唱

に臨んだ。金賞でも銀賞でも銅賞でも、みんな頑張り続けてきたその過程は変わらない、大切なのは本番に向けてどれだけ頑張れたかなのだと思う。二組の「変わらないもの」、三組の「大切なもの」そして一組の「絆」。それぞれのクラスでそれぞれの表現ができ、最高の合唱コンクールにすることができたと感じている。どのクラスも「賞の向こう側にあるもの」をつかみ取ることができたのではないだろうか。

来年度、クラスが変わってもそれぞれのクラスで得たものを昇華させ、さらに感動の合唱を聞かせてくれることを期待している。

合唱コンクール②

卒業にあたって

「一人一人の輝く笑顔」 二年二組
二年二組の生徒は一人一人がみな個性あふれるクラスだ。普段のクラスの様子というところ、騒ぎ立てるお調子者たち、それを見てニコニコ笑う人、静かに課題をこなしている人、本当に様々だ。だからこそ、毎日一緒に過ごして飽きない。そんな二組のみんなはやる時は本気を出してやってくれる。

最初のうちはなんとなく合唱練習をはじめた。そのうち、練習の様子を見て、大きな声で歌うことはもちろん、強弱をつけることや、表情豊かに歌うなどアドバイスをした。すると、素直に聞き入れ、それを生かそうと一生懸命に練習する姿が印象的であった。また、指揮者と伴奏者もそれぞれ熱心に練習をしており、互いにアドバイスを掛け合っている姿も見られた。練習の時には、結果にこだわらず、「年々組らしい」時を越えて、を歌おうと生徒に伝えた。とはいえず、合唱コンクールが近づくとつれて、みんなの本気度が増していき、「練習を一生懸命にやったからには金賞を取りたい！」という思いがひしひしと感じられた。



平等院にて(3-1)

みんなとの出会いは二〇二一年四月。その日のみんなは大きな制服を着て、トイレの電気が自動で点くことに驚きの声を上げて、今よりも少し高い声で「はい！」と返事をし、真新しい背カバンにたくさんの教科書を詰めて・・・そこから三年の月日が経とうとしています。この三年間は楽しくて楽しくて、ずっとこの時が来なければいいのにと思っていたけれど、遂に別れの時が近づいてきました。白木蓮にも似たその白い翼で、未来という果てしない空へ旅立つ時がやってきましたね。

二中を旅立つみんなへ。みんなには、これからもたくさんの目標の一つ一つ立ち向かいながら、たくさんの夢を叶えてほしいです。焦ることはありません。「あなたの毎日が世界をつくる」のだから、慌てずに一日一日を積み重ねていけばいいのです。そうすれば、「頑張ったよっていつか胸を張って言える」ような、とびつきり素晴らしい「人生」という名の迷路を進んでいけるはずですよ。

本番、ステージ下の階段近くで、生徒一人一人にグータッチと励ましの言葉をかけた。みんなこわばった表情で、いつもより足取りが早く感じられた。その姿を見て、私自身も心臓の鼓動が速くなった。しかし、ステージに上がると、みんなは思いのほか、伸び伸びと歌声を響かせていた。もしかしたら、今までで一番の歌声だったかもしれない。「金賞は、、、二年二組！」みんなのどつきりの笑顔が忘れられない。



2年生 学年合唱



大切な部活の道具とともに(3-2)

みんなは、私が教師になって初めて三年間一緒に過ごした学年。中学三年生の時にできた夢をみんなに叶えてもらいました。かわいくてかけがえない、「スペシャル」な存在です。交わした言葉、目に焼き付けた景色、奏でた音色、走った距離、たくさんの愛とほんの少しの涙、全部全部私の大切な宝物。もし、人生という名の迷路の最中に再び会うことができたならば、その時はまた、みんなが叶えた夢を教えてください。そんな日に来るのを心待ちにしながら、みんなからもらったたくさんの幸せを心に留めて、私も頑張ります。大好きなみんなへ。卒業おめでとう。三年間ありがとう。

関口友梨子

卒業おめでとう！
歌にとって一番大切なことは何か分かりますか？
一番大切なことは、「ふるちゃん」になることです。もちろん「パンツを脱げ」ということではありません。「心を裸にしろ」ということです。必死になっている顔に疑問をもつような人は、一生ダサイままです。「ふるちゃん」になって思いっきり声を出してみてください。他人を気にしているようじゃ、いいパフォーマンスはできません。それを超越させられれば、オーディエンスの心に届くんだと思います。

有名な作曲家バッハの言葉に、このようなものがあります。
「風は見えなくても風車は回っている。音楽は見えなくても心に響いてくる。」
心を込めて歌うことで、聴いている方たちの心に響いてくるのです。
さあ、叫んでみて下さい「I am FULLTEEN!」って。そして、これから「I am FULLTEEN」を胸に、「Bravoli!」な人生を送ってください。
北澤 浩司
心奏でて



奈良公園にて(3-3)

緑学年九十人の仲間たち、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございませす。
私が教員として人前に立ったあの日は成長します。一人でできることなんてたかが知れています。だから、縁を大切にしたいです。都合のいい人ばかりではありませす。気が合わない人もいます。一見敵に見えるような人もいます。でも、世の中悪い人ばかりではありません。人との繋がりを大切にしてください。これから先の人生を豊かにしていただく。

いいな、高校生！わくわくするね！何にでもなれる最高の一瞬一瞬が君たちを待っているよ。中学校のことは忘れて、色鮮やかな世界を思う存分楽しんでね！でもさ、ちょっと辛い時、ちょっと悲しい時、ちょっと世界が暗く見える時は、中学のことを思い出してね。いつでも味方だよ。大丈夫だよ。

柿沼香織

一年間という短い時間でしたが、皆さんと過ごした日々はかけがえない宝物となりました。
卒業とは一つの大きな節目ですが、皆さんの人生においては新たなスタートに過ぎません。これから先、様々な挑戦が待ち受けていることですが、今まで学んだこと、経験したことを糧に、一步一步前進していきましょう。
皆さんのこれからの人生が、希望に満ちたものであるよう心から願っています。そしていつの日か、皆さんがそれぞれの道で輝いている姿を見ることができるとを楽しみにしています。卒業、おめでとうございませす。これからも、皆さんの未来を応援しています。

吉井 貴亮



三年生のみなさん、保護者のみなさまご卒業おめでとうございませす。みなさんと一緒に過ごすなかでみなさんの明るさや優しさにたくさんふれ、いつも温かい気持ちになりました。

春からはそれぞれの場所で新しい仲間との出会いがありますね。わたしが人との関わりで常々感じていることは、人間関係は「鏡」だということ。優しくしてくれる人には優しくしたくなるし、意地悪な人には優しくしたくなくないと思ってしまう。明るく優しいみなさんには、新しい仲間達もたくさん優しくしたくなるはずですよ。みなさんらしく新たな場所でものびのびと羽ばたいてください。

青木梨花子

卒業おめでとうございませす。三年前の入学した頃の自分にどんな声をかけますか？楽しかったこと、つらかったこと、全てこれからの自分の力として蓄えられています。若い皆さんには計り知れない可能性ががあります。それぞれの個性を生かして自分にしか歩めない人生を進んでいってください。

とはいえ、まだ十五歳の皆さん、これから悩み事もあることでしょう。どうしようもなくなくなったときは誰かに相談！必ず周りに見守っている人がいます。

藤生由美子